

担当科目名	時間数	単位数	担当教員氏名	略歴(関連資格・専門領域等・その他)
リハビリテーション概論	30	2	河野 孝範	理学療法士として急性期病院にて急性期リハに従事。その後診療所にて地域リハビリテーションとして訪問リハビリと外来リハビリ、通所リハビリを経験する。2000年に介護支援専門員資格を取得し、介護支援専門員として居宅介護支援業務も兼任する。現在、地域包括ケア推進リーダーと介護予防推進リーダーを取得し、地域貢献活動として地域の介護予防・認知症予防活動に従事している。
地域理学療法学	30	2	河野 孝範	理学療法士として急性期病院にて急性期リハに従事。その後診療所にて地域リハビリテーションとして訪問リハビリと外来リハビリ、通所リハビリを経験する。2000年に介護支援専門員資格を取得し、介護支援専門員として居宅介護支援業務も兼任する。現在、地域包括ケア推進リーダーと介護予防推進リーダーを取得し、地域貢献活動として地域の介護予防・認知症予防活動に従事している。
理学療法治療学Ⅰ-A	60	3	菊地 淳	理学療法士、修士(医療安全管理学)。 1998年、関西大学法学部卒業、医療法人福島病院に入職。事務部、薬剤部助手、放射線科助手を経て事務主任。 2002年、大阪医療福祉専門学校理学療法士学科夜間部に入学(1期生)。2006年、理学療法士国家資格取得。 2006年、医療法人福島病院リハビリテーション科入職。2010年より事務主任兼リハビリテーション科外来主任。 2007年より豊中渡辺病院(現・関西メディカル病院)スポーツ外来にて6年間臨床研修。同年よりよしだ整形外科スポーツ外来非常勤、緑かなざわ整形外科非常勤。一般社団法人アスリートケア(旧・スポーツ傷害理学療法研究会)会員。 2012年、大阪医療福祉専門学校入職(理学療法士学科専任教員)。2019年、滋慶医療科学大学院大学医療安全管理学科修了。兵庫県高等学校野球連盟医務スタッフ。全国高等学校野球選手権大会、選抜高等学校野球大会医務スタッフ。 東京2020パラリンピック競技大会 FOP Athlete Physiotherapist(競技会場選手用理学療法士)
理学療法治療学Ⅰ-A	60	3	三浦 準也	理学療法士としてスポーツ整形外科クリニックに勤務。現在、同施設にてリハビリテーション部主任。一般の整形外科疾患のリハビリテーション全般だけでなくスポーツ疾患にも従事。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格保持。多岐に渡るスポーツ現場で活動。
臨床心理学	30	2	長澤 佑貴子	兵庫県内の児童相談所に心理判定員として8年、小学校にスクールカウンセラーとして5年勤務する。児童相談所では、児童へのカウンセリングを行うほか、知能検査や発達検査などの心理検査を年間200件ほどを実施する。臨床心理士および公認心理師資格取得。
疾患別動作分析学	30	2	疋田 佳希	理学療法士として9年間、急性期・回復期病院に勤務。その後、個人事業としてarukuck lab設立し、トップアスリートのリハビリ、足底板作成、歩行動作改善に従事される。現在は整形外科クリニックに勤務し運動器理学療法、スポーツ理学療法に携わっている。また、動作のバイオメカニクスに関する研究も行い修士号を取得。
動作学Ⅱ	30	2	疋田 佳希	理学療法士として9年間、急性期・回復期病院に勤務。その後、個人事業としてarukuck lab設立し、トップアスリートのリハビリ、足底板作成、歩行動作改善に従事される。現在は整形外科クリニックに勤務し運動器理学療法、スポーツ理学療法に携わっている。また、動作のバイオメカニクスに関する研究も行い修士号を取得。
理学療法治療学Ⅳ	30	2	山中 善詞	理学療法士としてボバース記念病院(脳卒中、脳性マヒ)を中心に23年、山の辺病院(小児～高齢者)を中心に19年勤務。現在、年間30症例、リハ顧問として山の辺病院、老健グリーンヒルズ、老健草庵のスタッフ約80名のセラピストの育成を(小児～高齢者)発達障害、脳性マヒ、ダウン症などの評価・治療として行っている。 ボバース国際インストラクター(脳性マヒ部門)、理学療法士協会ボバース研究会。
義肢装具学	30	2	佐伯訓明 東山学史 才寛史 柴大樹	佐伯訓明： 理学療法士として病院にて整形外科・脳血管リハなどを中心に9年間勤務。 その後は整形外科クリニックに転職し勤務。運動器・スポーツ・脳血管認定療法士の資格を取得。 東山学史： 理学療法士として総合病院で10年臨床勤務し、脳血管疾患リハ、運動器リハ、呼吸器リハ、循環器リハビリに携わる。片麻痺の上下肢装具療法、脊髄損傷者の車椅子調整、運動器疾患患者等に歩行補助具の選定・指導、切断患者の義足リハビリテーションに従事。臨床業務に加え、パラスポーツに携わる。義肢装具と関連深い、パラ陸上・車いすテニス・パラスノーボードなどの競技でトレーナーとして活動。認定理学療法(運動器、スポーツ、健康増進・参加)、障がい者スポーツコーチ、中級障がい者スポーツ指導員、AHA-BLSインストラクター資格所持。 才寛史： 理学療法士として、回復期リハビリテーション病院に5年間・訪問看護ステーションに2年間勤務し、回復期・維持期の脳血管疾患や整形外科疾患等を担当。脳血管疾患患者の下肢装具療法及び福祉用具の選定・指導、下肢装具適応の整形外科疾患患者等のリハビリテーションに従事。現在は整形外科クリニックに勤務し、整形外科疾患の外来リハビリを実施。脳卒中認定理学療法士、福祉住環境コーディネーター2級所持。 柴大樹： 理学療法士として総合病院に4年、整形外科クリニックで4年勤務し、運動器リハ、脳血管疾患リハ、呼吸器リハ、循環器リハビリに携わる。現在は臨床で下肢切断の方を担当する機会がある。認定理学療法(運動器、スポーツ、徒手)資格所持。

理学療法治療学Ⅳ-A	30	2	前田 和成	理学療法士として大学病院をはじめ急性期・慢性期の理学療法、地域にて在宅理学療法に17年間従事。特に呼吸器疾患の理学療法を専門とする。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員。認定理学療法士(呼吸)、呼吸療法認定士、呼吸器疾患多数の研究実績あり修士取得。
理学療法治療学Ⅳ-B	30	1	徳富 真洋	理学療法士として大学病院で心大血管疾患リハを中心に14年臨床勤務。その後7年ほど、急性期病院での急性心筋梗塞、慢性心不全、心臓血管外科術後のリハ全般に従事。心臓リハビリテーション指導士年資格所持。
生活環境論	30	2	波野 優貴	【実務経験】 理学療法士として、一般病院(急性期・回復期・慢性期・外来リハ)、老人保健施設、訪問看護ステーション勤務。福祉用具貸与・事業者へ勤務。現職にて、介護事業を展開する会社で、教育研修などに従事。PT資格取得より、主に高齢者を対象としたリハビリテーションや生活支援全般のフィールドで勤務してきた。高齢者福祉の中心となっているケアマネジメントの考え方の中で理学療法士が果たす役割について模索し、学会発表など行っている。その他、今後の介護人材不足に備え、社内で発足したテクノロジーを介護に生かすための研究所に兼務し、各種テクノロジーの開発や適応条件の設定などを行っている。 また大阪府東淀川区自立支援型ケアマネジメント検討会議助言者として活動中。 【関連資格】 認定理学療法士(地域)、福祉用具プランナー管理指導者、シーティングコンサルタント、地域包括ケア推進リーダー、介護予防推進リーダー、福祉住環境コーディネーター2級、おむつフitter3級
神経内科学Ⅰ	30	2	山田 一貫	理学療法士として大阪回生病院・みどりヶ丘病院に勤務。 急性期・回復期・訪問・外来リハビリテーションに従事。 認定理学療法士(脳卒中)、介護支援専門員(ケアマネ)、学術修士取得。 神経系学術発表多数。特にパーキンソン病関連の発表多数。
神経内科学Ⅱ	30	2	山田 一貫	理学療法士として大阪回生病院・みどりヶ丘病院に勤務。 急性期・回復期・訪問・外来リハビリテーションに従事。 認定理学療法士(脳卒中)、介護支援専門員(ケアマネ)、学術修士取得。 神経系学術発表多数。特にパーキンソン病関連の発表多数。
理学療法治療学Ⅱ-A	30	2	稲村 一浩	S59年より現在のJCHO星ヶ丘医療センター勤務で現在理学療法士長 H20年ボパース概念国際インストラクターとなり、神経生理学的背景での理学療法の研修会を毎年開催、日本PT協会主催の片麻痺講習会・脊損講習会、関節運動療法の講師も毎年開催 学校講師歴15年 長期PTOT講習会終了、現在 社団法人枚方市理学療法士会会長で卒後教育を中心に活動している。
理学療法治療学Ⅱ-B	30	2	宮下 創	理学療法士として兵庫県立総合リハビリテーションセンターに3年、JCHO星ヶ丘医療センターに8年勤務。2つの病院で脊髄損傷者に対するリハビリテーションに従事。2017年に認定理学療法士(脊髄障害)、2018年に認定理学療法士(脳卒中)を取得。担当症例数は頸髄および脊髄損傷例を合わせて50例以上を担当している。脊髄損傷に関する学会発表は筆頭演者7演題、共同演者11演題、総説論文1編。教育業績は理学療法士養成校(専門学校)にて2017年より「脊髄損傷のリハビリテーション」の授業を毎年12コマ担当。2020年に森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程を卒業し保健医療学修士を取得。修士過程では「頸髄損傷者の嚥下障害」について研究。日本理学療法士協会会員、日本神経理学療法学会一般会員、日本脊髄障害医学会会員、日本摂食嚥下リハビリテーション学会会員、日本嚥下医学会会員。枚方市理学療法士会生涯学習部および臨床教育部部長。
理学療法治療学Ⅴ-B	30	2	福井 浩之	理学療法士として総合病院にてリハビリテーションを18年経験。 ICUにて糖尿病性の急性昏睡で集中治療される患者から、糖尿病の教育入院患者に糖尿病の運動療法を指導。 糖尿病症例としては年間50症例以上。 内部障害専門理学療法士を取得。がんのリハビリテーション研修会修了。
理学療法管理学	30	2	高木 綾一	理学療法士として12年間病院に勤務。急性期～維持期、訪問リハなど様々で分野で臨床に従事。また、リハビリテーション部部長、事務部長としてマネジメントにも関わる。その後、(株)work shift設立し医療・介護・健康産業に従事する人々へのライフデザイン・キャリアデザインの支援を行っている。現在も訪問リハ・外来クリニック・アスリート指導にて臨床に従事。キャリアコンサルタント資格取得。学位は学術修士(MA)・経営管理学修士(MBA)を有している。 また、複数の理学療法士養成校にて理学療法管理学の講義を担当している。